

能

屋島

弓流
奈須与市語

シテ
松木千俊

YASHIMA

狂言

無布施經

シテ
野村萬齋

FUSENAIKYO

能

小鍛冶

KOKAJI

シテ
松木崇俊

松木千冬三十三回忌追善 第三十六回

まゆみ

檀の会

能面「平太」松下弘美作

令和六年一月二十七日(土) 午後一時始(開場午後十二時)於 観世能楽堂

13:00

13:20

15:30

16:05

16:30

番組

お話し

葛西 聖司(古典芸術解説者)

ツレ漁太 武田 文志

後シテ源義経 松木 千俊

能 屋 島

弓流 奈須与市語

アノ屋島ノ浦人 野村 裕基

後見 武田 友志
武田 宗和

地謡 関根 祥丸
武田 祥照
佐川 勝貴
坂井 音晴

武田 宗典
浅見 重好
武田 志房
坂口 貴信

休憩十分

無布施経

シテ僧 野村 萬斎 アド 施主 石田 幸雄

狂言

江口 観世 清和

融 観世 三郎太

休憩十分

能 小鍛冶

後シテ(童子) 前シテ(稲荷明神) 松木 崇俊

大鼓 佃良太郎 太鼓 小寺 真佐夫
小鼓 曾和 正博 笛 藤田 貴寛

アノ(宗近ノ下人) 野村 太一郎

後見 武田 文志
武田 尚浩

地謡 武田 崇史
田口 亮二
武田 友志
浅見 慈一
大松 洋一
小早川 修
岡 久広
下平 克宏

追加

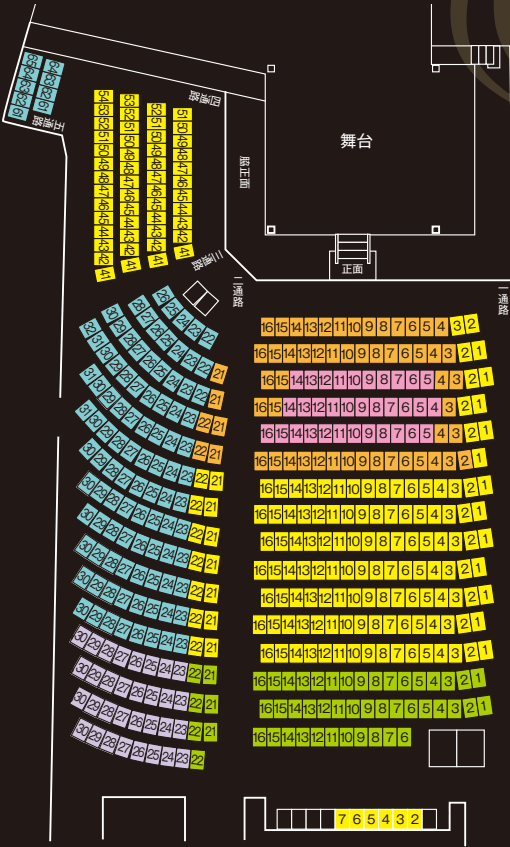
終了予定 午後五時三十分

能●屋島「やしま」

都の僧たち(ワキウキツレ)が、讃岐の屋島の浦にやってきました。宿を探していると、塩屋を見つけました。そこへ折よく、塩屋の主である漁師の老人(前シテ)が、帰ってきました。漁師の老人は、宿を貸します。僧がこの辺りが源平合戦の旧跡であったことを思い出し、そのありさまを語ろうと望むと、老人は、かつてこの屋島の浜で繰り広げられた源氏と平家の戦いを詳しく語り聞かせる。老人の口ぶりを不思議に思った僧が名を訊ねると、老人は姿を消してしまいました。老人と入れ替わるように屋島の浦人(アノ)が現れます。小書(弓流)は、義経が弓を拾う後半の場面に彩を添える演出で、奈須与市語はアノの見所です。僧は老人の正体が義経であることを薄々察し、義経を待つことにします。すると、僧の夢の中に義経(後シテ)が現れ、この屋島の出来事を語り聞かせる。義経はこの戦いで、落とした弓を名譽のために命がけて拾いました。そのため修羅道に落ちて、今も戦い続けているのです。義経は修羅道での奮闘を見せると、夜明けとともに姿を消し、僧は夢から覚めたのでした。

能●小鍛冶「こがじ」

橋道成(ワキツレ)が三条の小鍛冶、宗近(ワキ)の家に向かいます。帝が不思議なお告げの夢を、こがじに託したので、宗近に剣を打たせることになったのです。道成が帝の命令を宗近に告げますが、宗近は相槌を打つてくれる者がないと困惑します。そこで宗近は、氏神である伏見の稲荷明神に参ることにします。すると不思議なたたずまいの童子(前シテ)が現れ、童子は、宗近を励まし、自分が相槌をすることを約束し、稲荷山のほうへ消え失せてしまいました。鍛冶の壇を整えて神に祈りを捧げると、稲荷明神(後シテ)が出現。稲荷明神は宗近の相槌をとめて、剣を打ちあげ、小狐の銘を刻み、道成に剣を捧げます。そして雲に飛び乗り、稲荷山へと帰っていきました。(槍書店「能サポ」より抜粋)



- 特別席 30,000円 (終了後の会食、お土産付)
- S指定席 10,000円
- A指定席 9,000円
- B指定席 9,000円
- C指定席 7,000円
- D指定席 6,000円
- 学生席 3,000円



事務担当：080-2555-0626 (佐藤)
TEL・FAX：03-6767-5555
E-mail：matsunokai@gmail.com
HP：http://matsunokai.com/



二十五世観世左近記念 観世能楽堂
東京都中央区銀座6丁目10番1号 GINZA SIX 地下3階
TEL 03-6274-6579
能楽堂へは三原通り側、ツーリストサービスセンター横のエレベーター・エスカレーターで地下3階にお越しください。中央通りは土・日・祝で歩行者天国となっております。お車でご来場の際は通行できませんのでご注意ください。

特別展示 小さな美術館
「炎に生き、炎に祈る。」
小鍛冶にちなみ、宮入行平(人間国宝・故人) 宮入小左衛門行平 宮入陽 刀鍛冶三代に渡る特別展示を行います。
後援 公益財団法人日本刀文化振興協会